

蘇南中だより



自己を生かす生徒
助け合い励まし合う
知恵を働かす
たくましくやりぬく
令和5年9月1日発行

「植物に学ぶ生きる力」

教頭 可児 美紀

蘇南中学校には、イチヨウの木があります。イチヨウは、花が咲かず果実もできませんが、種子をつくる植物です。アスファルトに落ちている銀杏は、種子です。銀杏は、茶碗蒸しの中に入れることが多いので、食べたことがある人もいるでしょう。焼いて塩をかけても美味です。収穫の秋。植物は、人に自然の恵みをもたらします。

またグランドの片隅では、スマレが花をつくります。もちろん、スマレの花が咲くのは春が多いです。春に咲く花が種子をつくり、環境の変化に強い子孫を残します。一方で秋のスマレは、密かにコツコツと閉鎖花と呼ばれる花をつくっています。この閉鎖花は、開花することなく自家受粉してできる種子をつくります。スマレは、種子から自分のコピーをつくることもします。

子孫を残す手段を別にもっているのです。スマレの生きる力はすごいです。



写真：春に咲くスマレ

さて植物は、光合成により、食べることなく養分を得ています。動物と違い、狩りや畑づくりに精を出す必要はありません。太陽と水、空気等がある地球環境下で

あれば、植物は、生きていくことができるのです。

しかし「ギンリョウソウ」は違います。真っ白な様子は、一見植物とは思えないかもしれませんが、春から夏に花が咲きます。ただし、同じような植物で主に秋に花が咲くのは、「ギンリョウソウモドキ」です。両方分類上、サツキやシャクナゲと同じツツジ科の植物です。運が良いと、山道や林内で出会えるかもしれません。



写真：ギンリョウソウ

ギンリョウソウは、緑色の部分は見当たらず光合成をしません。当然食べることも動くこともしません。でも、土の中にいる菌類から養分をもらっているのです。光合成をしなくても生きていけるのです。

植物は、十億年以上かけて多様に進化してきました。環境の変化に対応するため、植物の一部は、武器でもある「花を咲かすこと」や「光合成をすること」をやめたり変えたりして大胆な生き方を選びました。

私たちは、変化が大きい予測不能な未来を生きていくと言われていています。植物の進化のように多様な生き方を、受け入れそして取り入れて生きていくことが大切だと思うのです。